

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	408A/C	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.040	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：408A/C

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 番

PAPからピンとの距離 インチ

5 インチ

研磨剤

比較対照ボール：508A

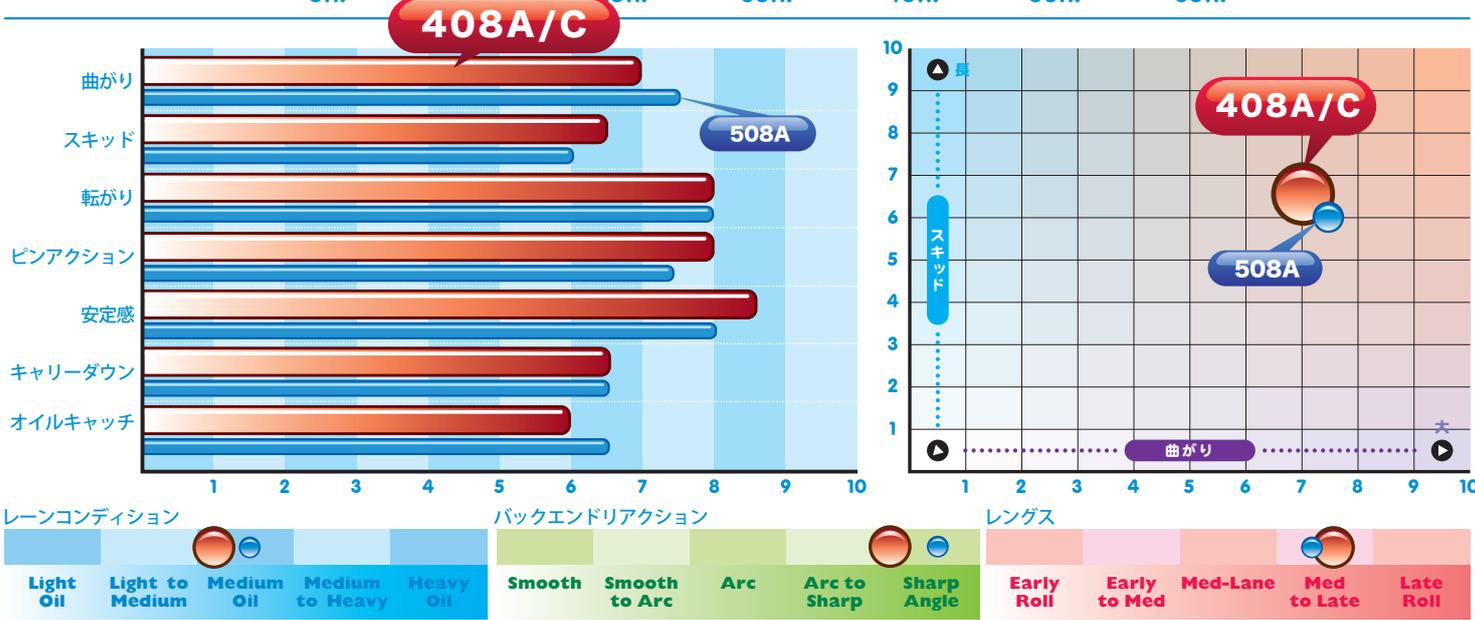
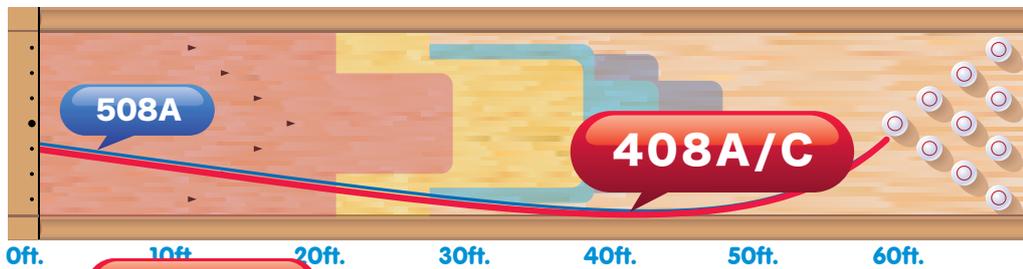
フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 番

PAPからピンとの距離 インチ

5 インチ

研磨剤



ボールの評価

日本で人気の高いUpper Midパフォーマンスの”4”シリーズは、ABS専属川添プロをはじめ、プロ・アマ問わず数多くの成績を支えてきました。そして何より多くのユーザーが長年この4シリーズを愛してくれたからこそ、ここまで数多くの4シリーズを世に送り出したのだと思います。

私達ABSボール開発チームは予めから4シリーズでAngularとControlを併せ持つ運動領域を視野に入れ、テストを行ってきました。「今までにないキレとコントロール性の両立」は、定評のあるShuttleコアをパワーユニットとしてさまざまなカバーストックの組み合わせを試みてきたからこそ生み出された性能と言っても良いでしょう。キレ感はじゃじゃ馬のように暴れるぐらいの向きではなく、A/Cのコンセプト通り、「ストライク率の高い角度への切れ込み」”A”と「フックからロール期の安定感」の”C”と表現できます。私が投球したイメージでは、最終仕上げの#1000ポリッシュがフロントエリアからミッドエリアまでの安定したキャッチを供給できていて、そのキャッチはスキッドを妨げないレーンを捉えながら直進する感じです。

後半のミッドエリアからフック・ロールと移行期の動きが一気に向きを変えるというイメージはないのですが、しっかりと柔らかく切れ、フィニッシュするリアクションを感じることができました。

私達がこの4シリーズに求めているものは、「ミッドプライスで高性能・高品質」であり、やや遅くなってからの領域No.1のボールであること。インターナショナルの製品だからこそ、日本のマーケットの最良を求め今回も拘りつくし仕上げました。

特記事項 待望の4シリーズ。今回はAとC双方の性能を併せ持つスペックに仕上げました。やや遅くなってきたコンディションでこれ以上の武器はありません。